

## ふるさと ～ にじょうざん ～

下のしゃしんは音楽室のまどからのながめです。  
ふたこぶらくだのせなかのやまのようなかは「**にじょうざん**」と  
いいます。



※高い方を「雄岳」、低い方を「雌岳」といい、

高さ（標高）はそれぞれ517 m、474 mです。

### にじょうざん 二上山のヒミツ①

にじょうざんはむかし、**かざん**でした！

※今は噴火する可能性のない「死火山」です。

※ふもとでは昔からサヌカイトなどの石が切り出され、高松塚古墳

にも使われているそうです。

## 二上山のヒミツ②

むかし、奈良（あすか）にみやこがあったころ、みやこと大阪をむすぶ道が二上山のすぐ横（南側ふもと）をとおっていましたが、それは、**日本さいしょの「国道」**だといわれています。

※この道は「竹内街道」といわれ、南海・堺東駅付近から、近鉄・古市駅のそばを通り、奈良県・当麻寺あたりまでつづいていました。

## 二上山のヒミツ③

二上山の高い方（左側）を「雄岳」といいますが、



そのてっぺんには、

「大津皇子」という人のお墓があります。

この人は、悪いことをしていないのにうったえられ、ころされてしまったといわれています。

そのことを知って、

この人の おねえさんが とても悲しみ、

「きょうからは、二上山を わたしのおとうとだと  
思うことにします」

という うたを よみました。かなしい ものがたりですね。

しょうとくたいし しご  
聖徳太子の死後すぐのはなしです。



↑ にじょうざん ひで  
二上山の日の出

おねえさん (おおくのひめみこ  
大来皇女という) の うた を  
のせておきます。

「うつそみの <sup>ひと</sup>人にあるわれや <sup>あす</sup>明日よりは  
<sup>ふたかみやま</sup>二上山を <sup>いろせ</sup>弟背と わが<sup>み</sup>見む」

(<sup>げんじつ</sup>現実の<sup>よ</sup>世の中<sup>なか</sup>にいるわたしは <sup>あした</sup>あしたから  
にじょうざんを <sup>おとうと</sup>弟とおもって  
あおぎ<sup>み</sup>見ること<sup>に</sup>にします)



← <sup>ちょうじょう</sup>頂上からの <sup>ながめ</sup>ながめ